

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

民政クラブ

代表者名

井町圭孝

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 5 年 2 月 20 日提出

活動年月日	令和 5 年 2 月 6 日 (月) ~ 2 月 8 日 (水)	
氏名	三宅健司、井村伸幸、加藤嘉哉、井町圭孝	
用務先 及び 内 容	1	用務先 新潟県長岡市
	2 月 6 日	内 容 子育ての駅について
	2	用務先 山形県鶴岡市
	2 月 7 日	内 容 消化ガス発電事業について
	3	用務先 青森県弘前市
	2 月 8 日	内 容 弘前市駅前こどもの広場について
	4	用務先
	月 日	内 容
備 考		



● 政務活動視察調査報告書 (No.政務-494)

委員会・会派名	井村伸幸、三宅健司、加藤嘉哉、井町圭孝 報告者：井町 圭孝
視察日時	令和5年2月6日(月) 13:00~15:00
視察先・概要	新潟県長岡市 ・人口 260,965人(R5年2月2日現在) ・世帯数 109,869世帯 ・面積 891.06km ² ・人口密度 292.9人/km ²
視察内容	子育ての駅について
選定理由(目的)	長岡市オリジナルの保育士や子育てコンシェルジュのいる屋根付き公園について学ぶ
岡崎市の現状と課題	岡崎市には屋根のある公園機能を持つ施設がない。豊田市の鞍ヶ池公園にはあるため、よく比較され、子育て世代から設置を望む声も多い。
視察概要及び評価	1. 長岡市の特徴 子どもの成長に合わせた一貫した支援体制を構築しているのが特徴で、0歳~15歳までの子ども及び母子保健、保育園、子育て支援を教育委員会に統合し、教育委員会の中で一元的に支援できる体制を整えたのが特徴。 2. 『子育ての駅』の概要 雨や雪の日でも遊べる全天候型の施設を有し、更に保育士や子育てコンシェルジュが常駐しており、気軽に相談もできる施設。 長岡市内には大型の子育ての駅が4施設(てくてく、ぐんぐん、ちびっ子広場、すくすく)、保育園や幼稚園の施設の一部を活用した小型の地域版子育ての駅が9施設ある。 3. つなぐ支援 全ての子育ての駅に、子育てなんでも相談員『子育てコンシェルジュ』を配置。一人ひとりに寄り添った相談や情報提供を行うほか、必要に応じて、専門・関係機関に同行するなど「つなぐ」支援を行っている。 4. 見学施設(ちびっ子広場、てくてく) (1) ちびっ子広場 駅からの徒歩圏内であり、約1万3千冊の絵本や育児書が並ぶ「まちなか絵本館」も設置。高校生、大学生等と連携して、次代の親となる若者に、子どもとふれあう機会も提供。 (2) てくてく 信濃川沿いの2haの公園の中に設置された丸・三角・四角をモチーフにした建物で、屋根付きの広場と子育て支援施設を一体的にした全天候型の公園施設。一時保育「せんしゅう保育園」も備え、一時保育のニーズにも対応



5. 視察中のQ&A（一部抜粋）

Q：施設内の有資格者は？

A：保育士と資格は必要ないが子育てコンシェルジュを配置している。

Q：子育て支援が教育委員会に統一された経緯は？

A：以前は就学前は福祉部門だったが、同じ子育てするうえで一貫して支援できる体制を整えた方が良さだろうとの考えにおいて教育委員会の中に就学前も支援できる体制を整えた。

Q：地域版子育ての駅について、保育園に併設されているところが多いが、園と駅とどのようにすみ分けされているのか？

A：園の一角をお借りして駅の運営をしている。委託しているが、駅の担当者を決めて、エリアをきっちりと分けて運用している。

Q：ちびっ子広場及びてくてくの運営費は？

A：園長は正規職員だがその他は会計年度任用職員。その他一時保育園の運営経費、イベント開催経費、サークル支援事業経費等ちびっ子広場は約3千9百万円／年、てくてくは3千万円／年

本市への反映
（意見・課題など）

井町：現地に行って初めて分かったのは、雪国は冬場は天気が良くても公園などで遊べないこと。このような室内遊戯施設が必須であり、雪の積もらない地域と比較するとニーズは非常に大きかったことと推測する。実際利用者はコロナにより半減したようだが、てくてくは一日200人を超える利用者があるとのこと。

また、長岡市は、都市公園の事業費補助金や合併特例債などをうまく活用し、一般財源を少額に抑えて建設している。（てくてくもちびっ子広場も一般財源は10万円以下）

岡崎市にはこのような広場や遊具のある屋根のある空間はないため、よく豊田市の鞍ヶ池公園や昔の太陽の城と比較されるが、子育て世代からは要望をいただくことは多い。

実際、岡崎市内に公園内に大屋根施設をつくる検討がされているが、このような施設を設けることも今後とも要望していきたいと考える。

三宅：市内4か所の子育ての駅は平成21年から24年にかけて開所しており、事業を計画的に進めてきたことがうかがえた。広い市域に偏在せず施設を設置され、また施設は適正な規模であることは利用者の要望を的確に把握していることも理解できた。

施設で働いている方々の表情もイキイキしていることも良い施設たることの条件ではないかと考える。施設には男性（夫）の姿も見られ、夫婦協力して子育てをしていることも感じる事ができた。施設のひとつ「てくてく」は公園に隣接しており、天気の良い日は公園で子どもを遊ばせることができるのは施設に来たいという効果もあると考える。

これまでも子育て世代から施設建設の要望も多く、地域特性の違いはあるものの本市も天気に左右されることなく子どもを遊ばせることのできる施設を設けるべきと考える。

井村：従来、縦割りの考え方が強いことから、大きな施設整備には時間がかかり様々な課題が生じてくるが、長岡市においては行政の縦割りの考え方をなくし、分野を横断し、連携・融合した施策により子育ての駅の整備に着手されたことは、本市においても参考にすべきと

考えさせられた。特に、乳幼児期から思春期までの子供の成長に合わせた一貫した支援体制が必要との考えから一元的に支援する体制整備に着手され、子どもに関係する施策を統合するために教育委員会内に「子ども未来部」を設置し、子育て支援に重きを置かれていることから長岡市の子育てを大切にしているのを感じられた。

市内には今回視察をさせていただいた「ちびっこ広場（まちなか絵本館）」や「てくてく」を含め、市内には4つの子育ての駅が開設されており、すべての駅に「子育てコンシェルジュ」が配置され子育てに関する相談や情報提供が行われているとのこと。子育ての駅で子どもを遊ばせながら、落ち着いてコンシェルジュに相談できる複合的な環境整備の重要性をあらためて感じさせられた。

加藤： 屋内遊戯施設として現地（子育ての駅てくてく）を案内してもらった際に、施設の外は一面の雪景色であり、やはり雨天時はもちろんのこと雪の季節も屋内施設は必須であると実感した。利用者も週末はもちろん、平日でも多くの方が利用されているとのこと。また、市内の4カ所に子育ての駅が開設されており、全ての子育ての駅に「子育てコンシェルジュ」が配置され、子育てに関する相談等を行っている。本市においても、子育て世代の保護者の方々に対し、安心して子育てができる環境づくりにより一層努める必要があると感じた。



説明いただいた、教育委員会子ども未来部子ども・子育て課課長補佐の佐藤様と『てくてく』の前で

● 政務活動視察報告書 (No.495)

委員会・会派名	三宅健司、井村伸幸、井町圭孝、加藤嘉哉	報告：三宅健司																								
視察日時	令和5年2月7日（火）10時00分～11時30分																									
視察先・概要	山形県鶴岡市 人口 121,365 人、面積 1,311.53km ² 、世帯数 49,274 世帯 市制施行 平成17年10月1日（1市3町1村が合併）																									
視察内容	「公民連携による消火ガス発電事業」について																									
選定理由（目的）	今まで使われなかった廃棄物等を利用した発電方法の勉強をする。																									
岡崎市の現状と課題	脱炭素先行地域に選定され今後具体的に計画していく中でバイオマス発電も導入していくとしている。																									
視察概要及び評価	◇特徴 廃棄物・未利用の消化ガスを発電に利用 二次エネルギー（温水）を有効利用																									
	◇環境性 消化ガスは発生時に二酸化炭素を吸収して生産されるため、大気中の二酸化炭素を増やさない（カーボンニュートラル） メタンガスは二酸化炭素に比べ21倍の温室効果があるが、メタンガスを発電に利用することで温暖化防止に寄与する																									
	◇経緯 平成 8年 施設利用で発電する計画を立てる 平成12年～13年 消化ガスマイクログスタービン実証実験 →コストがかかり設備投資回収は困難であった 平成26年 国のFIT制度施行、民設民営による発電事業を決定した →発電した電気を大手電力会社に売電し収入を得る 平成27年 発電施設の建設工事、民間事業者と消化ガス売買契約締結、民間事業者による発電事業開始 →FIT制度による買い取り期間は20年																									
	◇事業概要 発電所名：鶴岡バイオガスパワー 発電機：25kwバイオガスエンジン×12台 発電容量：300kw																									
	◇稼働実績																									
	<table><tr><th>年度</th><th>消化ガス使用量</th><th>売電量（kwh）</th><th>温水供給量（MJ）</th></tr><tr><td>H29</td><td>1,144,826</td><td>1,941,986</td><td>4,722,376</td></tr><tr><td>H30</td><td>1,105,883</td><td>1,844,162</td><td>5,229,008</td></tr><tr><td>R01</td><td>1,090,052</td><td>1,862,369</td><td>5,426,726</td></tr><tr><td>R02</td><td>1,062,502</td><td>1,849,870</td><td>5,998,510</td></tr><tr><td>R03</td><td>1,061,308</td><td>1,891,232</td><td>6,332,701</td></tr></table>	年度	消化ガス使用量	売電量（kwh）	温水供給量（MJ）	H29	1,144,826	1,941,986	4,722,376	H30	1,105,883	1,844,162	5,229,008	R01	1,090,052	1,862,369	5,426,726	R02	1,062,502	1,849,870	5,998,510	R03	1,061,308	1,891,232	6,332,701	
年度	消化ガス使用量	売電量（kwh）	温水供給量（MJ）																							
H29	1,144,826	1,941,986	4,722,376																							
H30	1,105,883	1,844,162	5,229,008																							
R01	1,090,052	1,862,369	5,426,726																							
R02	1,062,502	1,849,870	5,998,510																							
R03	1,061,308	1,891,232	6,332,701																							
	*消化ガス使用量は年々減少している。 人口減少＝下水道使用の減少。 *売電量 189万kwhは一般家庭470世帯分に相当。 二酸化炭素削減量は約 1,500 トンに相当。																									
	◇長所（○）と短所（×） ○民間事業者の運営により維持管理費がかからない。 消化ガスの販売により収入を得られる。 地球温暖化防止に貢献できる。 2次エネルギーである温水を農業栽培に利用し、そこで育てた野菜を学校給食に提供している。 ×今後さらに人口減少が考えられ下水道使用量が減少していく。 FIT制度に20年という期限がある。																									
	◇主な質疑 Q：民間事業者はどのように選考したのか？																									



説明をいただいた
松岡主査

	A：経営、施設計画、維持管理等13項目の提案を要求した。鶴岡浄化センター消化ガス発電事業選定委員会にて審査した。 Q：FIT制度の期間が満了した後本事業はどうするのか？ A：具体的なことはこれから検討していく。
本市への反映 (意見・課題など) 対応いただいた職員さん(前列右から) 松岡主査 山口下水道課長 板垣浄化センター所長	【三宅】鶴岡市では下水道資源を農地に還元させよう、市民が恩恵を受けるようにしようという考えがもともとあり、汚泥を肥料化して販売したのが始まりである。その後、消化ガスを発電に利用しようと計画し実証実験を経て本格的な取り組みに発展してきた。これはカーボンニュートラルという言葉自体が聞かれなかった平成の頃から本事業に取り組んできたことは先見性があると感じた。しかし、人口減少問題やFIT制度の期間満了もこれから控えているので、施設をどのように活かしていくのが課題と感じた。本市もQURUWA地域が脱炭素先行地域に選定され、さくら電力を始め太陽光発電・バイオマス発電なども活用する計画である。今後の目指すべき姿をできるだけ具体的にしていける必要があると考える。 【井村】 鶴岡市ではもともと「下水道資源は農地に還元させるべき！市民が恩恵を受けられるようにするべき！」との考えが市民にもあり、下水道処理で発生する「消化ガス」「処理水」「汚泥」の有効活用には学ぶべき点が多かった。特に、消化ガス発電による余剰熱によりビニールハウス内を一定の温度に保ち、リンはじめ有機物質を多量に含む下水汚泥により製造したコンポストによる作物栽培や、処理水により藻を育ててアユの養殖に取り組むなどどれ一つ無駄にしない取り組みが行われていた。地元の小学校の見学もあるそうで、情操教育の一貫にもつながるものと感じた。 【井町】 岡崎市には下水処理施設はないものの、エネルギーの有効利用や取り組む体制づくりについては非常に参考になった。 特に余剰熱の利用については、本市でも周辺環境を含め参考にできる施設があると思われるので、提言をしていきたい。(民間施設も含め、市が体制づくりに協力できると思われる) 【加藤嘉】 鶴岡市では、下水道資源は農地に還元させるものであり、その恩恵は市民が受けるものという考え方で事業を推進している。現地施設にて説明を受けた、「消化ガス」「処理水」「汚泥」の活用事例は非常に参考になった。本市においても、ゼロカーボンシティを推進していく上で、限られた資源の有効活用をどんどん取り入れていくべきと考える。 消化ガスタンク 温水を利用したハウス

視 察 者	三宅健司・井村伸幸・井町圭孝・加藤嘉哉
視 察 日 時	令和 5 年 2 月 8 日 (水) 10 時 00 分～11 時 30 分
視 察 先・概 要	青森県弘前市 ・人口: 163,899 人 ・世帯数: 71,134 世帯 ・面積: 524.2km² ・青森県西南部に位置し、東に奥羽山脈の八甲田連峰を望み、西に「津軽富士」と呼ばれる青森県最高峰の岩木山を有し、南には秋田県にまたがり世界遺産に登録されている白神山地が連なっている。県内最大の流域面積を持つ一級河川岩木川が、約 30 km におよび北流している。県の基幹農産物であるりんごの約 4 割を生産する樹園地が 85,44 km²にわたり広がっており、さらにはその樹園地を取り巻くように山林地帯が伸び、緑豊かな自然環境に恵まれた地域となっている。
視 察 内 容	弘前市駅前こどもの広場について
選定理由(目的)	本市において、雨の日でも子ども達が自由に遊べる屋内施設がなく、保護者の方々からも屋内遊戯施設を望む声が多い中、実際に屋内で子ども達が遊べる場を提供している他市の事例を見学し、本市においても検討できるよう参考にする。
岡崎市の現状と課題	市内に雨天時でも子ども達が自由に遊べる屋内施設がなく、近隣市町に屋内施設が整備されつつある現状に対して、本市としても整備に向けて進めていく必要があると考える。
視 察 概 要	【施設概要】 ・2013 年弘前駅前地区再開発ビル「ヒロロ」開設に伴い、「こどもたちの笑顔あふれる弘前づくり」を実現する為、「ヒロロ」内に公共フロアとして市が買い上げ(3 階・4 階)をオープン。 ・弘前市駅前こどもの広場は、乳幼児とその保護者を対象とした子育て支援センターの機能と、おおむね 3 歳から小学生までの子どもとその保護者を対象とした遊び場で構成される、市の子育て支援の拠点施設である。 ■子育て支援センター: プレイルーム・子育て支援情報センター・託児室・親子交流/研修室 ・授乳室・相談(無料) ☆託児室のみ 500 円/1 時間(3 時間まで利用可能) ■遊び場: 「屋内の公園」3, 4 歳～12 歳(小学生)までの子どもが対象(無料) 【設置の背景】 ・冬場(雪)や雨の日自由に子どもを遊ばせることが出来る屋内施設が欲しいという市民にニーズが多かった。既存施設(子育て支援センター)が、駐車場が少ないことや、施設における活動等が見えづらく、気軽に利用しにくいとの声があった。このような声を踏まえ、駅前の商業施設で十分な駐車場が確保でき、施設の賑わいの創出にも貢献できる。各フロアとの連動・連携が可能なことから、再開発ビル内に開設された。 【主な質疑応答】 Q1. 利用者の声について A1. 天候に左右されずに利用でき、また駐車場も 3 時間無料であることから、非常に助かる。 Q2. 施設内の有資格者について A2. 保育士 13 名体制(交代制で勤務) 保育士資格が必須条件 Q3. 運営における予算規模は? A3. 令和 4 年度は 5800 万円。ほとんどが人件費で 300 万円が修繕費用に充てている。 Q4. 利用料は? A4. 託児室の一時預かりのみ 500 円/時(3 時間まで) それ以外は全て無料
本市への反映 (意見・課題など)	【三宅】 駅前という絶好の立地条件であることはうらやましい限りである。もとはスーパーなどが入った複合施設であったが、スーパー撤退後にうまく活用することができた好事例と感じた。施設は無料で利用することができ、これまで利用する際には金銭的な負担をしてもらうことが当たり前と想像していただけに「お金をもらえばお客さん」という説明には驚きつつ共感した。また、施設側と利用者は対等であるという考えが根底にあることも印象に深く残った。 施設にはぬくもりを感じることができる木製のおもちゃや遊具が多くあり、本市も市産材の活用方法のひとつとしていくことができると考える。行きやすい場所であることはもちろんであるが、施設が入っているビルにはフードコート・美容院・書店・洋品店などがあり、利用者は自分の用事もいっしょに済ますことができるのも魅力である。

【井村】

長岡市同様、降雪・積雪時でも屋内で子供たちが遊べる施設を望む子育て世代からの要望から、新規に土地購入や施設建設を行うのではなく民間の商業施設の1フロア(＋別フロアの一部)を買収することで子育て支援センターと遊び場を兼ね備えた施設を開設していることは参考にすべきと感じた。

日に15名まで一時預かりが可能な託児については前日までの予約を基本としているが、保護者の突然の病気や育児疲れの解消やリフレッシュにも対応するため、当日の受け入れも行っているとのこと。子育て世帯にとって本当に必要な事業に取り組まれていると感じた。

また、子育て支援センターのプレイルームや遊び場などには、どこからでも中が見える高さでの壁が設けられており、他の父親も来ているとの安心感から、乳幼児と一緒に2人だけで来訪する父親の姿も増加したとのこと。本市における子育て支援設備の参考にすべきと感じた。

更に、遊び場に設置されている遊具類は全て木材により製作されており、子供たちの感性を育む上で非常に配慮された場であり、本市にも提言すべきと考える。

【井町】

駅前にある駐車場完備の再開発ビルのフロアを市が購入して利用料無料の子ども広場を開設。雪深い冬以外にも暑い夏の日にも多く利用されている。施設内は、地元職人の技術を生かした木の遊具やおもちゃを使用している点も、多くの市民に受け入れられていると思った。

また、利用者の相談にも力を注いでおり、子ども広場に配置の保育士に加え、包括と一体的に保健師や助産師とも相談できることや、この場所だけでは解決できない場合はつなげる支援も行っている。

子供を気軽に遊ばせることが出来る施設に加え、親御さんの相談もできる施設が利用しやすい環境にあることは、市民の子育ての安心につながっているものと考え、一体的に整備する重要性を感じた。

【加藤嘉】

雨天はもちろんのこと、雪国でもある地域においては雪の時期に屋内で子ども達が遊べる施設を望む声は多く、そのニーズに対して弘前市では弘前駅前の再開発ビルの中に子育て支援センターと遊び場を有する施設を開設した。商業施設の中の1フロアを買い上げ、開設していることから利用者である保護者の方々も駐車場の心配もなく、施設内にて食事や買い物も可能であり、非常に使い勝手の良い施設であると感じた。また3時間まで利用が可能な託児室も備えられており、利便性はより高い施設となっている。本市においても、雨天時における屋内遊戯施設を望む声は非常に多く、弘前市の様な再開発ビルを利用する手法も非常に有効であると考えた。